健康むなかた21　やってみよう！　第44回

このコーナーでは、健康づくりに取り組んでいる元気な市民・団体のみなさんを紹介しています。
■問い合わせ先　健康づくり課　☎（36）1187

子育てに心強い味方

活躍する民生委員児童委員

今回は、「子育てサロン」や「こんにちは赤ちゃん訪問」などで子育て支援に取り組む民生委員児童委員（主任児童委員）の活動の一端を、市民記者が取材しました。

「子育てサロン」でお母さんの手助けを

「お久しぶり」「あら、赤ちゃん元気そう！」。

赤間西地区コミュニティ・センターで、毎月第4金曜日に開かれている子育てサロン「ぬくもりっこ」。赤ちゃんを抱いた若いお母さんたちが集まってきます。取材した9月末は、1歳前後の赤ちゃんとお母さん9組が水遊びを楽しんでいました。お世話をするのは、子育てサロン担当のボランティアのみなさんです。

「今日は少し涼しいので、ビニールプールの周りで水遊びするだけですが、みんな楽しそう」とリーダーの錦戸道世さん（40歳代）。赤間西地区の民生委員児童委員14人の中で、主任児童委員を務めています。

「子育てサロンは、慣れない子育てで不安や戸惑いを感じたり、孤立して悩んだりするお母さんの手助けをするのが目的です。新しい友達や情報交換ができる憩いの場ですね。コミュニティ運営協議会の青少年育成部会の運営ですが、その部会長もわたしなんです」。

子どもたちと水遊びを楽しむ錦戸さん（右端）

心強い「プロの存在」

「子育てサロンは、赤間西コミセンができてすぐに始めましたから、10年近くなりますね」と当時、主任児童委員だったボランティアの山嵜直子さん。ボランティアにはいろいろな人材がいますが、恵愛保育園の畠中智美園長もその1人です。

水遊びを終えた子どもたちに、多目的ホールで大きな絵本の読み聞かせをする畠中さん。話に合わせて、大きなエプロンのポケットから次々とぬいぐるみが出てきて子どもたちも夢中です。「小さな子どもでも分かるんですね。プロがいて心強いです」と錦戸さん。わたしが、「本業の方は大丈夫ですか？」と質問すると、「園長の仕事は外回りが多いし、子育てサロンは月1回なので大丈夫です」と畠中さん。お母さんたちもすっかり打ち解けて、友達も増えたようです。

絵本の読み聞かせをする畠中さん（右端）

もう一つの「大切な仕事」

錦戸さんには、子育てサロンと連動したもう一つ大切な仕事があります。今年6月から始まった「こんにちは赤ちゃん訪問事業」です。子育てに関する地域の情報の提供や、相談相手になることが仕事の内容です。

全国では、助産師や保健師による産後の専門的指導として「新生児訪問」を実施していますが、全世帯を実施している自治体や、希望者のみを対象としている自治体などさまざま。その中で、入院中など特別な理由を除いて全世帯を訪問している宗像市は心強いと言えます。

赤ちゃんを訪問する錦戸さん(左端)

さらに、全国で乳幼児虐待死亡事件などが多発していることから、市では育児支援をより効果的にするため、地域に詳しい主任児童委員の協力を得て、第1子の家庭と妊娠中に市外から転入してきた人を対象に、今年6月から主任児童委員による全戸訪問も開始しました。その第1号が錦戸さんたちです。

話し相手を待っている若いお母さん

「最初に1人で訪問した時はとても緊張しました。訪問対象は、今年4月以降に生まれた赤ちゃんがいる家庭です。子育てサロンの紹介など10分～30分ぐらい話をします。若いお母さんも話し相手を待っている感じですね」と錦戸さん。専門的な助言が必要な時は、健康づくり課に連絡する仕組みになっています。

子育てサロン「ぬくもりっこ」に参加していた樋口はるかさん（20歳代）は、生後4カ月のななみちゃんを抱え、「7月に錦戸さんの訪問を受けました。子育てサロンのことを聞いて8月から参加しています。中間市から引っ越してきて、知らないことばかりで不安でしたが、錦戸さんの明るさに触れ、友達もできて子育てに自信がわいてきました」とにこやかに話してくれました。

（市民記者　真嶋賢一）

子育てに自信がわいてきたと話す樋口さん

保健師からの一言　地域とのつながりの第一歩へ

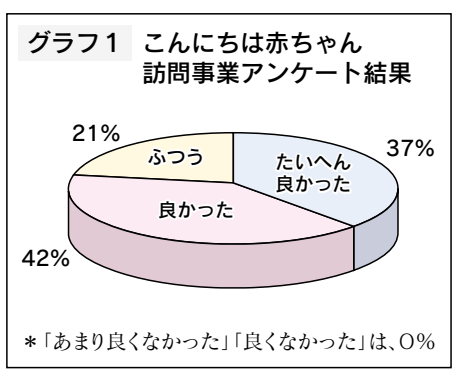
松本保健師

市では、以前から、赤ちゃんが生まれたほとんどの家庭に助産師や保健師が訪問し、おっぱいのケアや子どもの体重の増え具合、授乳の仕方や予防接種の受け方など専門的なアドバイスを「新生児訪問」で実施していました。それに加え、地域のつながりを持つことを目的に6月から「こんにちは赤ちゃん訪問事業」を実施。民生委員児童委員が、赤ちゃんがいる家庭に訪問し、地域の人と人の橋渡し役となって、地域の子育てサロンの情報やコミュニティ活動の紹介をしています。

現在、市では、毎月60～70人の赤ちゃんが生まれています。そのお母さんたちは、幼少期から宗像に住んでいる人より、妊娠中に転入してきた人や妊娠するまで仕事をして地域のことをあまり知らない人、実家が遠方で相談する人が身近にいない人が多いようです。

そのなかで、地域の民生委員児童委員から子育てサロンに誘われ、その人がそのサロンにいると、安心して出かけてみようという気持ちになります。そこで多くの親子とのつながりができ、少しずつ地域のつながりができているようです。

「こんにちは赤ちゃん訪問事業」のアンケート結果（**グラフ1**）では、訪問の満足度は、「たいへん良かった」「良かった」を合わせて79％で、「来てもらい話をしてもらってうれしかった」という声が聞かれました。



日中2人きりで話し相手も少ない状況の母子に、外の風を運んでくれる民生委員児童委員の訪問活動が、地域の大事な子どもたちをみんなで育てていけるようなきっかけになるといいですね。

なお、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」を希望する人は、母子健康手帳交付時に配布している「妊婦歯科健診補助券」に添付しているハガキ（**写真赤枠**）に必要事項を記入して申し込んでください。

舞台裏

■わが家には10歳になる犬、というより家族がいる。テレビなどで殺処分を待つ犬や猫の姿を見ると、正視できずチャンネルを替えてしまう■「アニマルレスキューむなかた」の命を大切に思う「捨てず・増やさず・迷子にしない」活動に共感■飼い主としての責務を肝に銘じる。（う）

■小学生のころ、給食はその日1番の楽しみだった。数回の転校で、いろいろな給食を経験。関東では頻繁に納豆、関西では串カツ。地域によって特色があった■地元の新鮮なアジを給食で食べることができる宗像の子どもたち。恵まれた自然環境ならではの給食は幸せだと思う■残念ながら宗像の給食を味わったことはないが、日々、宗像の自然の恵みに感謝。（み）

■激しい雨の中での「実業団女子駅伝」。カメラを雨から守りながら、必死にシャッターを切った■参加チームの増加やオリンピック金メダリストの参加もあり、昨年以上の報道陣。大会も大いに盛り上がった■選手の走りにも感動したが、雨の中で写真を撮る報道陣の技術や根性にも脱帽。とても勉強になった。（あ）

広報紙への意見・要望を右記に寄せてください。
▽発行：宗像市　▽住所：〒811-3492　福岡県宗像市東郷1－1－1
▽編集：情報政策課広報係　TEL：0940-36-1055　FAX：0940-34-2002
メールアドレス：koho@city.munakata.fukuoka.jp
▽印刷：株式会社 西日本新聞印刷